

2023年1月

初詣若きに合はせ砂利を踏む 幸せと思ふ幸せ初詣 初富士の暮るるひととき茜雲 曾孫にお年玉出す心意気 書初の孫を迎える朝湯かな カシミヤを纏ひて寒に立ち向かふ 山寺の紅葉鮮やかスマホだけ 落花生炒る薫ひして人寄りき 年波に喪中はがきの数増せり 初春や姫三人のめでたさよ 大寒や散歩をねだり歩もせかし からっ風片足かくす迷い鳥	生き雛の一般参賀愛子さま ひとことの手書きの嬉し年賀状 鴨を見て童女に返る友の顔 年が明け暗いニュースは置き去りに 枯れた庭水仙満開白き山 冷え込めど奥まで陽が射し気が紛れ 友と行く佐鳴湖畔や鶉と遊び さざんかの花散る岸边水光り 春連れて小雨降る降る夜更けかな 新年の安寧願い祝詞あげ 嫁さんは「ああ清しい」と頭垂れ 新漬けの大根に老いの歯が達者
--	--

2023年2月

ノーマスクマスク美人が困り果て 恵方巻昔は無いとやせ我慢 やっと出た出るまで引いて大吉が 霜枯れの庭の花木のセピア色 外泊の友の残せし寒さかな 友逝きし春の明かりを灯さずに 冬の薔薇固き蕾のゆっくりと 真夜中のうがひ歯にしみ目も冴ゆる 今さらにダイニングこたつ購入す 夕食にタウリンとりてよき眠り 深夜便川柳聞くも朝忘れ 露の臺摘み来し指に香り付け	シクラメン三回咲かせ悦に入る 水炊きのおじやで終わる今日も吉 一羽二羽春告ぐ鳥の来て止まる スカスカなブレオープンのドラマ館 一瞬に勝負師の顔卓麻雀 マスクとるうぶ毛を剃って準備する 道路端ミカン並べて雨かぶる 睨み合い平和を崩す貧富の差 転がりて痛めた膝が太き増す 日常が戻りつつあり福は内 春立ちて陽ざしやはらぎ露の臺 香り立つかぶ入り粥の土なべかな
---	--

2023年3月

「早春賦」歌ひ春待つ痛む足 大谷の申告敬遠がっかりす 一斉にラッパ水仙大笑ひ 木枯しに応えし犬を思い出し ふと見ると真白き富士が顔を出し ひとの世に戦い絶えぬ時ぞなし 黄木蓮真青な空独り占め 花吹雪小枝飛び交ふ鳥のかげ これの年まず目にふれる訃報欄	区割り終え市長の次は知事さんか マスク舞いきしむ物音春一番 正座して主待つ犬春の宵 香り来る星降る夜の沈丁花 春立ちぬ水辺の鴨ののどけさよ 春一番髪なびかせて朝の人 春一番犬ふんばりて我も又 春意ほのと今できること少しずつ ポツポツと枯野に色の戻りくる
--	--

朝晩とコロケコロケ昭和初期
日本語のだんだん良くなるノートバー

手を振りて笑ふ幼子風光る

2023年4月

アスリート春というのにどう進む
地震起き家がつぶれて夕飯無し
花の種腹ふくらませて地に潜る
いいのかなスマホたったの一円で
松潤の下手な芝居のいとしくて
値上がりはカネスエにまで世も末だ
阿茶の方逢瀬は梅見家康と
満開の桜の下や五平餅
黄昏れて眠りに入る牡丹花
満天星につつじジャスミン咲きほこる
庭先の眺めひと日を籠りけり
竹の子を送り頂く毛蟹かな

新緑のもみじ葉わたる風やさし
この夏も野菜作りに意気を込め
待ちぼうけ待たされ咲いたしゃくなげ花
散歩道今日もうぐいすさわやかに
踊ってる桜吹雪と幼子と
花散るも子等の笑顔のはじけてる
バリバリと雑言吐いてすまし顔
毎日が春満杯の花だより
怖ろしやテロ感染の前触れか
まんさくの霞むその先黄泉らしき
花冷えの浜松城や異邦人
むらさきに心まで染め藤の花

2023年5月

人、人、人コロナ明けてのこの熱気
松潤家康にっこり手を振る歡喜の輪
五七五感謝感謝のこの八年
ジャニーズの闇をあばいて何が出る
すぐに来る業者の見積もりビックリだ
死にきれぬおもいのたかはミステリー
高齢化老害あってまた楽し
メタポでも和服を召せばそれなりに

タイムズも選択肢つけてドロンする
シャンソンの熱き余韻やつつじ燃ゆ
老鶯の声聴き惚れし上り坂
これほどの山だったとはつつじ花
通勤時二両増えし赤電車
視力落つ気配感じて病室に
トキワメゾンビルの谷間に見えし文字

2023年6月

庭先のこぼれた種の花々や
大国は核を保持して勝手言う
我が胸中血液繋ぎ手足動く
昨日まで雑草今日からは新種
メルカりに広報はままつ松潤版
一生分と思って食べたさくらんぼ
救急車で疼痛治りし臯月かな
さくらんぼの土産うれしき夫の旅
雨止みし雀さえずり百合開く

待ちかねしこの日この時ヨーイドン
結果発表歡喜の声や空に舞う
雨音に菅原洋一愛の歌
梅雨曇り武田氏惚ぶ大善寺
さくらんぼ波動の変わる大善寺
花も散る謀反相次ぐ天目山
大原の風柔らかし紫蘇畑
大善寺山門重き梅雨ぐもり
さくらんぼ宝石ほどに光おり

2023年7月

<p>二日目が旨いカレーが四日ある かすれ声それも味なり八代亜紀 盆踊り笑顔ふりまく議員さん 驟雨去り畑に光る茄子の紺 蜀黍に齒の立つ若さ吾も欲し 送り火や夫なき日々に戻りけり 庭の先朝顔の色次々と 長雨に扇子うちわの出番なし また豪雨混乱の地が攪乱す</p>	<p>蝉時雨蒲焼く匂ひつれてくる いちじくの枝伸び緑のカーテンに 夏休み草取る孫を募集中 抑止力平和のためと言うけれど シャワー浴び暑さしのぎの浴衣掛け 呆け役に徹してみれば平和かな 夏祭り老ひも若きもひとつの輪 幼子の浴衣甚兵衛シャボン玉 スーパームーン両手広げて我が胸に</p>
--	---

2023年8月～9月

<p>内閣の人事で進む貧困化 ジャニ騒動一番得したジャニーさん 梨あげて貰う高級マスクット これっぽちも飛べぬ白雨の水溜り 蝉時雨身罷る友の声のして 花火消え新たな雲の生まれけり サーファーの海しろがねに光りけり 残されし夏服に姉よみがえる 白木槿今日のいのちと知らぬげに 孫の取る草の値や爺瘦せる 台風の予想にゆれる帰省かな 小椋佳の校歌流れる甲子園 朝顔のつるは自在に千代女かな 無花果や蟻が味見し鳥が食ぶ</p>	<p>先を読み負けて優勝手の内に へんてこなことが起こるやこの世紀 花々に水かけ終わり雨が降る この猛暑先へ進めず後退り 台風が行き場さがして里乱す 米寿来て一杯の花部屋埋める 花の種腹ふくらませ土潜る 朝顔の蕾だらけて朝の壁 静かなる学び舎つつむ蝉しぐれ 甲子園大歓声にコロナ去り 惜敗にいい試合だったと高評価 来るよ来るはるかに雷鳴蚊帳を吊る 夕立ちの上りて蜘蛛の巣やひらり 悪玉菌みんな流して超スリム</p>
--	--

2023年10月

<p>明日もまた生きてやるぞと米をとぐ 本日はご破算して床につく ごめんねに続くけれどまたもめる 幸せはいつも同じ朝にあり 何もかもそれでいいよと澄んだ空 土いじり人間らしい顔になり 虫の音に爛一杯のうまさかな 八冠だ！おいらは風邪で発汗だ 秋彼岸隣の花と見比べて 急な雲一面多い足早め 赤焼に二列揃って雁渡る 秋の風熟女に見えし電子辞書</p>	<p>青梅の紫蘇色となる九月尽 わが庭に盗人萩の侵入す 身の程にあらぬ松茸部屋に満ち 木より葉のちらほら落ちてくる晩夏 名月や何でも聞いてくれそうな ニュース聞きなにか腹立ち草むしる 悟りある俳句残してや真澄空 秋服に包まれ逝くや真澄空 紅葉散り神護寺詣でただふたり あと一問とまらぬ数独秋の夜 都田にフィンランドの曲なりひびき 曼殊沙華愛でて登れば古寺ありき</p>
--	---

2023年11月

冬晴れか否々残暑の神無月
スズメバチ茶の花だけを独り占め
富士の峰遙か遠くの冬日より
去来塚訪へば波打つこぼれ萩
八千の石仏と聴く秋の声
秋寂びや里のよすがの繭細工
石路に雨静かなり母を恋ふ
庭隅の山茶花の紅賑やかに
鎌倉彫盆に大きな柿彫りりし
名月や鈴虫鳴かす熱帯夜

夕映えに心ぬすまれ我と犬
まだ減らぬ点滴棒の目盛かな

百年前の川柳

(関東大震災のあった大正元年)

ビルデング下の方から暮れて行き 笑 草
ライオンの丸焼けがあるするが町 美津男
生きている便りが届く雨の朝 英 一
追って来る火に子供丈抱いて逃げ 泰 泉
復興の力と酒屋広告し 家 庭